

～公民館の多様な活用について～

地区公民館は、これまでも様々な形でご利用いただいておりますが、地域によっては、利用頻度が多くない館やほとんど利用されない部屋を持つ館もあります。また、地域の団体による営利目的の利用希望や民間事業者からの利用希望があってもお断りしているケースがあります。

現在の利用者は、今のままご利用いただきつつ、希望に応じてもっと活用の幅を広げることで、施設の魅力や市民の満足度も向上するのではないかと考えています。

そのほか、鳥取市では、目的が限定された専用施設を複数整備するのではなく、一つの施設を多目的に使うことで、財政負担を抑制しつつ効率よく公共サービスを提供していきたいとも考えています。

公民館を活用する幅を広げますが、公民館職員が様々な事業を企画するのではなく、地域の皆様や関係する事業者が、自らのアイデアを実現できる施設となり、次のような暮らしにつながればいいと思っています。（あくまでイメージです）

★★公民館での出来事（平日編）

ある朝、公民館前を通りかかると花壇に水やりしながら談笑する老人クラブのメンバー。週末にある花壇コンクールの話で盛り上がっている。「優勝したらまちづくり協議会の活動として加えてもらって、地域全体で取り組みたい。美しいまちをめざそう！」と話している。



公民館の会議室では、公民館職員が企画した、ものづくり講座が開催されている。今年から他地区の住民も参加できるようになったので、これまでと違う顔ぶれだ。

その隣の部屋では、〇〇会社がスマホ教室を開催。使い方の講義だけでなく、機種や契約内容の変更、新規契約も受け付けてくれる。

今の時代、スマホは必需品なので、アドバイスだけでなく、手続きもできるのは助かる。



簡単な内容であれば、パソコンのことも教えてくれるらしい。パソコン教室までじゃなくても基礎的なことを若い方に聞けるのは助かる。

ものづくり講座に参加されていた方も途中から参加してきた。参加者同士が話をする中で、スマホ教室に参加された方も、ものづくりに興味津々。次は公民館事業に参加しよう！と話している。

調理室では、料理研究家の●●さんが料理教室を実施。まちづくり協議会役員が地域の魅力再発見として、まち協役員がSNSを通じて依頼して実現した取組で、いつもは公民館で見ない顔ぶれが、地域で採れた山菜やキノコを使った料理に挑戦している。キノコの調理には専門的な知識が要るので、●●さんじゃないと難しいらしい。

受講料はかかるが大丈夫。料理教室で作った山菜おこわ、キノコ料理は自分達で食べるのとは別に、お惣菜として販売するし、教えてもらった調理技術で、今度、▲▲地区であるイベントに出店するので元が取れるのだ。



昼になると、公民館駐車場にキッチンカーや屋台が集まってくる。駅前にある有名ラーメン屋が月に2回だけ出店してくれる。これが目当てで公民館にやってくる方も多い。路線バスが減って駅に行くのも苦労するから、来てくれるのは嬉しい。



キッチンカーの隣では、公民館の近くで起業したカフェの店主が屋台で淹れたてコーヒーを振舞ってPRしている。コーヒー豆の配達も受けてくれるらしい。さっき作っていた山菜おこわを購入して持ち帰る人も何人か見えた。

駐車場1台分の使用料なので格安で出店しやすいだろう。来週は噂を聞きつけたタコス屋さんが出張販売するみたいで今から楽しみだ。

昼を過ぎると少し人の出入りは収まった。公民館内外で、コーヒーを飲みながら地域の方が談笑している。

公民館前に置かれたベンチは地元の工務店の手作り。無償で提供してくれる代わりに工務店の広告が入っている。大きな木の下であり、木漏れ日の下で会話が弾んでいる。



午後からは、地域の将棋サークルとコーラスグループが公民館を利用。よく見ると公民館近くのカフェのコーヒーを飲んでいる。聞くと公民館まで配達してくれるらしい。

しばらくすると、地区社協と地域住民の方が来られた。夕方に実施する地域食堂の準備らしい。飛び込みで協力することにした。地域で支え合う取組みとして各地域で広がっているが、体験するのは初めてだ。



夕方が近づき、子ども達が公民館にやってくる。まだ地域食堂には早い…。聞くと週に一度の英会話教室があるらしい。

もちろん月謝は必要だが、送り迎えが必要ないのは保護者にとって嬉しいし、子ども達の好奇心や学力アップにはいいと思う。聞くと保護者グループが話し合っ誘致したらしい。

地域食堂では、まちづくり協議会や自治会の役員もローテーションで参加されている。地域として、事情を抱える家庭に寄り添い、知り合う場となっている。

ここはいい地域だと再認識し、子ども達の笑顔を思い出しながら、一日が終わる。



～公民館の多様な活用について～

地区公民館は、これまでも様々な形でご利用いただいておりますが、地域によっては、利用頻度が多くない館やほとんど利用されない部屋を持つ館もあります。また、地域の団体による営利目的の利用希望や民間事業者からの利用希望があってもお断りしているケースがあります。

現在の利用者は、今のままご利用いただきつつ、希望に応じてもっと活用の幅を広げること、施設の魅力や市民の満足度も向上するのではないかと考えています。

そのほか、鳥取市では、目的が限定された専用施設を複数整備するのではなく、一つの施設を多目的に使うことで、財政負担を抑制しつつ効率よく公共サービスを提供していきたいとも考えています。

公民館を活用する幅を広げますが、公民館職員が様々な事業を企画するのではなく、地域の皆様や関係する事業者が、自らのアイデアを実現できる施設となり、次のような暮らしにつながればいいと思っています。（あくまでイメージです）

★★公民館ので出来事（週末編）

週末は、まち協が主催する、朝どれ野菜の軽トラ市が開催される。栽培しているのは、地域の高齢者の方で、野菜作りが生きがいになっている。また、地域で採れた野菜だけでなく、地区外のスーパーマーケットが生鮮品の出張販売をしてくれる。車を持たない高齢者が増えてきたので有り難い取組だ。



それだけでなく、最近では地域食材を生かしたオリジナル料理も販売されている。料理が好きな大学生サークルが、趣味の延長で取り組んでいる。食材は地元農家が提供して、調理や販売は大学生がやっている。美味しくない日もあるが、楽しみにしている地元住民もいるし、時々、大学生の友達が大量でやってくる。若者との触れあいは、軽トラ市にちょっとした刺激を与えている。



この地区のまちづくり協議会は、「地域防災力の強化」をまちづくりの目標にしている。今日は、隣接する地区と合同で防災訓練がある。地区名は違うけど、隣り合っているので、災害時には助け合った方がいい。実際、自宅からは隣の地区にある公民館の方が近い人もいるのだ。

避難訓練の後、◇◇防災会社が指導してくれて消火器の使い方を習った。消火器も◇◇防災会社が無償で提供してくれて助かる。

◇◇防災会社とは、災害時には、助け合い協定を結んでいる。地域内の事業者とつながっていることが心強い。





備蓄用品の必要性について説明を受けた際、どこで買えばいいのか…といった高齢者の声。すると、その場で缶詰の注文を受け付けしてくれるらしい。商売なのだろうが、防災訓練の場で試食できるし、注文したら、自宅まで配達してくれるとのこと。缶詰は重いので、本当に助かる。更にまとめて買ったら安くしてくれる。

午後からは、▽▽町内会の子ども会主催のバーベキュー。使っているテーブル、バーベキュー台は、地元工務店と子ども達がDIYで作成した作品らしい。それを知らなかった保護者は、子ども達の成長を喜びつつ、嬉しくてお酒が進んでしまっているようだ。



みんなで楽しんでいると、▲▲地区であるイベントに参加していた料理教室メンバーも合流。イベントでの土産話と、残念ながら余った料理でバーベキューを盛り上げてくれた。残り物とは言え、地元で採れた山菜のおこわは格別においしかった。

子ども達と保護者以外の地域の方が関わる良い機会になっているようだ。子ども達も初めての山菜料理に興味を湧いたらしく、料理教室に行ってみたい！と言い出した。

夜になると、会議室の電気が点いた。まちづくり協議会のメンバーが、■■企業と合同イベントの企画会議をしているので、参加させてもらった。■■企業は、地域貢献として、住民が喜ぶことを模索しているらしい。

イベントを話し合うはずが、隣の地区も巻き込もう。●●料理店の協力もほしいな、あそこの空き家を使えないかな…
どういった地域を描いていくのか？という話に花が咲く。
地域のお店も事業者も地域づくりの一員だ。



明日からも、この公民館を舞台にして、どんな暮らしが展開されるのか楽しみだ。

「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、★★地区」